

持続可能なリユース事業を目指して ～全国の皆様から教えられた事～

松岡 幸一（まつおか こういち／株式会社マツユキリサイクル代表取締役）

環境文明21から、弊社の事業や想いを大いに宣伝して下さいと原稿を依頼され、一体何からお伝えすれば良いのかと考えた時、真っ先に思い出すのが、やはり毎日のように弊社に送られてくるダンボール箱の荷物です。

その中には、全国の皆様から寄せられた衣類やかばん、くつ等が箱一杯に詰め込まれています。

“世界の誰かの為に役立てて下さい”、“捨てるのがもったいないので海外へ送って下さい”と様々なメッセージが添えられている事も少なくありません。

私達は、それらを目の前にした時、送って下さった方々の願いや、隣人に対する想い、勿体ないと感じる心を本当に尊いと感じ、全国の皆様から環境事業のあり方を教えられ励まされるのです。そんな方々に、感謝を込めてお礼状を書かせて頂くと、しばらくすると再度衣類が送られてきます。弊社までの送料のご負担をお願いしているにも関わらず、何度も送って下さるリピータの方も多し中、家中の衣類を全て送っているのではと思わせるほど頻りに送って下さる女性がおられました。ある時お礼状を書く際「何故そんなに何度も送って下さるのですか」と尋ねたところ、捨てるのが勿体ないと言う思いと、やはり別の理由もあったのです。

それは、自宅近くに市の焼却施設があり、住宅建材や有害ごみを毎日のように焼却するため、季節風の影響で煙が自宅に入り込み、ご家族の1人が体調を崩す事や、それが原因で窓を開ける季節になると家族がバラバラに暮らさねばならなかったと聞かされたのです。

その事からゴミ問題を考えるようになり、木や石油など限りある資源から生活に必要な物を作り

出しては、まだ使える物でもいらなくなったからと簡単に何でも捨ててしまう社会や、何のためらいもなく処分する行政に疑問を感じるようになったそうです。そしてこの先、誰もがこんな事をし続けると、いつか本当に世界中から資源がなくなる日が来るのではないかと考えたら恐くなったそうです。

私達は、このような方々の想いを知った時、日本人のもったいない精神は決して失われてはいないと確信するのです。今や大量生産、大量消費の時代は終わり、物を大切にしてまだ使える物はリサイクル、リユースするのが当然の世の中になりつつあると感じます。そして弊社の環境事業は、“国内で不用になった衣類でもすぐに捨てないで下さい。海外ではまだ充分役立つ物が、私達の身の回りには沢山あるのです”と、1人でも多くの人にお伝えするのが我々の役目であると考えています。

～海外から見た日本とは～

私は貿易の仕事を通して、外国人から見た日本の素晴らしさや豊かさを聞かされる度に改めて自国を振り返り、今更ながらすごい国だと思ってしまうのです。日本は昔から資源が乏しく自然災害の多い国だと言われてきましたが、狭い国土の中、長い年月をかけて人々の譲り合いの精神が育まれました。昨年の大震災の時さえ、被災者同士が助け合い、支えあっている姿は世界中の人々を感動させ、尊敬の眼差しで見えて頂いた事を同じ国民として誇らしく感じたのは私1人だけではなかったと思います。

又、資源が乏しくても、ものづくりでは世界では類を見ない技術と文化を培ってきた国家ではな

いでしょうか。

弊社はこの3年間で、東南アジア、アフリカ中東、ヨーロッパ等、様々な国を視察して参りましたが、海外の人々が皆一様に声を揃えて言われるのが日本製品の素晴らしさです。日本製は壊れない、丈夫である、使いやすい、おしゃれであると称賛され、衣類、電化製品、車など日本製なら使い古した中古品であっても購入したいと切望されるのです。昨年、中東に海外視察に行った際、ある外国製の新品の鉛筆と日本製の使いかけの鉛筆があったとすれば、迷う事なく現地の人は日本製を選ぶのだと聞かされました。何故なら外国製は新品であっても途中で折れるけど、日本製は最後まで折れずに使えるからだそうです。これは一例であって、この類の話は山ほどあります。今や日本人のものづくりに対する精神や技術は世界一と言っても過言ではないと思います。

～弊社のなすべき事～

弊社が、事業をする上で気をつけている事があります。

1つ目に、海外視察を通して現地を知ると言う事です。危険地域には近づきませんが、豪華観光バスツアーではなく路線バスや電車に乗り、時には安宿に泊まりながら出来るだけ現地の人々の声を聞き、人々の暮らしや生活を肌で感じ取ります。又、その国で必要としている衣類は何か、誰もが気軽に購入できる衣類の値段はいくらなのかと、自分達の日や耳で確認する事が最も重要であると考えています。

日本でいらなくなったからと何でも途上国へ送っていいとは限らないのです。その国その国に合った物が必ずあり、朝晩の寒暖の差が激しいアフリカでは夏物だけではなくジャンパーも必需品なのです。

弊社では、国内で回収された衣類の中から、汚れたもの、ぬれた物を取り除き、出来る限り途上国で喜んで使って頂ける物を送るように心掛けています。又、新品やブランド品も送る事で、いい

物が入っていたと喜んで頂けるように配慮してこそ信頼関係が生まれ、健全で持続可能なリユース事業を展開していく事が可能となるのです。

海外の国は全て隣人であり、私達は隣人を思いやる心や常に対等な立場で物事を考える力を養わなければならないと考えています。

2つ目に、弊社の事業を市民の皆様へ有りのままお伝えする事です。よく間違われるのが、弊社がボランティア事業の一環として衣類を海外へ寄付していると思われる事です。もちろんカバンの売上の一部はNGO団体へ毎月寄付させて頂いているのも事実ですが、弊社が皆様にご提案しているのは、誰もが負担なく気軽に衣類をリユース出来るシステムを構築し、国内で発生する資源ごみを大幅に削減する環境事業です。

余談になりますが、弊社が昨年1年間に回収した衣類は、5000トン以上にもなり、もしこれらを回収せず行政で焼却した場合、私達の税金を2億円以上使って処分しなければなりません。弊社はこの膨大な衣類を海外へ送る為に大型プレス機を導入し、中間業者を介せず回収、プレス、コンテナ積み、書類作成など全ての工程を自社で行う方式で経費を抑え、輸出に伴う為替リスクを抱えながら、企業努力を続けています。時には赤字経営の苦しさから国からの助成金も考え、葛藤したのも事実です。けれども、国に何かをしてもらうのではなく、国の為に何が出来るのか、今の時代何が求められているかを考える時、自ずと新しいアイデアが浮かび、挑戦する勇気が再び沸き起こってくるのです。

環境ビジネスは市民や行政に喜ばれる事業でなくてはなりません。そして衣類のリユースは、国内だけでなく途上国の人々にも喜ばれ、現地での雇用と自立を促進する事業でもあり、私達はそれを最終目標としています。

今後、私達は市民の皆様と共に環境問題に取り組み、時代とニーズに合った環境事業をご提案させて頂き、少しでも社会に貢献できる企業へと成長して行きたいと願っています。